

## Volunchの掲げる目標

- ①ボランティアの楽しさを発信し、  
地域と市大生をつなげる
- ②ボランティアに参加することで  
自分の経験値をあげる



ボランティア

# Volunch

2018 活動報告誌

横浜市立大学  
ボランティア支援室  
学生スタッフ



2019年3月発行

## ボラツアー

ボランティアへの  
第1歩をサポート！

Volunchのスタッフが選んだ  
ボランティアと一緒に参加する  
ことで、ボランティアに対する  
不安を解消しましょう

## オリパラ企画

東京2020オリンピック・  
パラリンピックへ向けて！

東京2020オリンピック・パラリンピック  
について、ボランティアの視点  
から考えを深めてみましょう

# 2018年度の活動

## 他大学交流

より良い環境作りのために！

学生がボランティアに参加したい  
と思える環境作りを、他大学との  
交流を通して考えます

## Volounge企画

(YCUスクエア S27)

学生にとって身近な  
存在になるために！

ボランティアに参加するにあたり、  
学生の体験談などを聞いてみましょう

# ボランティアへの第1歩をサポート！

## ボラツアー

ボラツアーは、市大生がボランティアを始め  
るきっかけとなることを目標としています。  
緊張と不安により1人でボランティアに参加  
することをためらう学生のため、Volunchの  
スタッフと一緒に参加することができる機会  
を用意しています。  
活動前後のサポートも行い、ボランティアの  
楽しさや充実感を味わってもらえるようサ  
ポートしています。

### 鎌倉路地フェスタ

2018年度最初のボラツアーでは、4月の“鎌倉路地フェスタ”においてSNSを利用した広報活動を行いました。初めて訪れる土地で、取材をし、SNSで発信する活動に不安な状態でのスタートでしたが、お店の魅力を引き出すような文章作りや写真撮影を意識しながら活動する中で、不安は解消されていきました。お店の方の優しさとおかきのおかげで、楽しく活動を終えることができたと感じています。

このボラツアーは、普段あまり関わる機会のない地域の方々と、コミュニケーションをとるという貴重な経験になりました。また、「地域の方の温かさに触れる」ことの大切さを実感しました。

### 子ども大学よこはま

6月のボラツアーでは、子どもに豊かな学びの場を提供し、子どもが視野を広げ、夢を育むことを目的とする“子ども大学よこはま”において参加者の受付や講義終了後の片付けを行いました。子どもたちが、真剣に講義を聴き、積極的に質疑応答している姿には感動しました。

今回のボラツアーの事前に立てた「子どもの勉強する姿勢をサポートする」という目標は、子どもたちのサポートや設営を間接的に行うことができた点では達成できましたが、講義の間などに子どもたちとコミュニケーションを取れたら良かったという反省点もあったと感じます。

### Y.S.C.C.ホームゲーム 運営スタッフボランティア

2018年度最後のボラツアーでは、Y.S.C.C.というサッカーチーム(J3)のホームゲームにおいてグッズ販売や観客の荷物チェックなどに加え、ホームでのラストゲームとなった樋口監督に向けたメッセージを集める活動も行いました。サッカーに詳しくなかったのが不安な状態で活動をスタートしましたが、選手や観客、ボランティアの方々が優しく声をかけてくれたので楽しく活動できました。最終的には、「笑顔で対応する」という目標を8割は達成できたと思います。

普段はあまり接する機会のない選手や観客の方々と触れあう貴重な体験は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックでのボランティアに活かせると感じました。

# 東京2020オリンピック・パラリンピックへ向けて！ オリパラ企画

オリンピック・パラリンピック企画では、東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、ボランティアに対する考えだけでなく、自分の将来について、それぞれが深く考えるための機会を提供することを目標としています。

オリンピックボランティアの経験者の方を講師に招いて講演会を行ったり、医学部と連携した医療対策講座を行ったりしています。

さらに、世界への日本文化の発信を目的に、小学生に日本文化を伝える活動も行っています。



R Rest (休憩)  
I long (長い)  
C Compression (圧縮)  
E Elevation (昇上)

## スポーツボランティアセミナー

5月25日に八景キャンパスで開催しました。本学学生のみならず関東学院大学の学生や一般の方にも参加していただき、参加者は100人にのぼりました。

セミナーでは、シドニーとアテネで開催されたオリンピックの大会ボランティアを経験された市居愛さんを講師に招き、実際のボランティアの様子や内容、東京2020オリンピック・パラリンピック大会ボランティアに参加するための申し込み方法や研修内容について学びました。

参加者の皆さんは、熱心に説明を聞きメモを取っていました。質疑応答の時間では多くの質問が上がり、ボランティアに参加したいと思っている人たちの意識の高さを感じられました。

オリンピックにボランティアとしてかかわりたいと思っている人たちの動機は、自分の語学力を生かしたい、今まで取り組んできた競技に関する知識を生かしたいなど様々でしたが、東京2020オリンピック・パラリンピックを盛り上げるために多くの人と活動できることは、またとない学びの機会になるのではないかと強く感じました。

セミナーを通して、多くの人がオリンピック・パラリンピックのボランティアに興味を持ち、情報を得ようとしていることが分かりました。実際に参加したことのある方のお話は、参加者の方にとって良い時間になったのではないかと思います。



## はまっこふれあいスクール ～金沢小学校～

### 8月：紙芝居上演&ちぎり絵WS

小学生約50名を対象に紙芝居上演とちぎり絵WSを行いました。紙芝居は、平和や友情をテーマにした創作物語に市大生が絵を描いたものを2本上演しました。子どもたちは、横浜紙芝居普及会の代表、山下さんが醸し出す独特な雰囲気に取り込まれていました。

WSでは、子どもたちに工作を通して日本文化に触れてもらうため、“ちぎり絵”で日本画や東京2020オリンピック・パラリンピックのマスコットであるミライトワとソメイティを作ってもらいました。子どもたちは、みんな集中して思い思いのちぎり絵を作っていました。学生スタッフも子どもたちと一緒に日本文化に触れる良い機会となりました。



### 12月：牛乳パックによる和紙づくりWS

日本の伝統文化である和紙作りを小学生約30人とともに行いました。絵を見せながら紙漉きの説明をし、小学生とともに実際に紙漉きを行い、乾燥させ和紙を作りました。そこに絵や文字を書き、年賀状を作り上げました。みんな楽しそうに絵を描いていました。

子どもたちは、「牛乳パックが別の形に生まれ変わることができる」という発見をし、私たちは、牛乳パックの再利用方法を知り、エコや環境汚染を考える“教育”を交えたWSとなりました。子どもたちだけでなく、私たちも新たな発見や興味を持つ機会になりました。

## スポーツボランティア講習会

1月12日に八景キャンパスで開催しました。東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が1年後に迫り、ボランティアの現場でどのような危険が起こり、どう対処するのかを学ぶため、横浜市立大学医学部学生団体“YDC”と協力し、東京2020オリンピック・パラリンピックをはじめとするスポーツ大会等で起こる医療に関するリスクを想定した対策講義と実践演習を行いました。



YDCによる対策講義では、参加者との意見交換を行いながら、ボランティアと医療との関わり方について考えていきました。講義を通して、強調されていたのは“大切なことはまず自分の身の安全を守ること、その後周囲の状況を見て、冷静に対処する”ということでした。

実践演習では、Volunchメンバーが怪我人・病人役を演じ、参加者の方々には対処法を考え、実践してもらいました。その対処法をYDCメンバーが評価・解説をすることで正しい応急手当の方法や、AEDの使い方等を学んでいきました。

参加者の皆さんの正しい応急手当を意欲的に考え、学ぼうとする姿勢にとっても感銘を受けました。

Volunchメンバーも、講義や実践演習によって、応急手当等の方法を学ぶことができ、今後のボランティア活動に繋がられる講習会となりました。



より良い環境作りのために！

# 他大学交流

他大学交流を行う目的は学生がボランティアに参加したいと思えるより良い環境を作ることです。他大学で行っている企画を参考にしたり、お互いの悩みや不安を相談し合うことで、それぞれの団体のレベルアップを目指しています。

## 5月交流会

日本社会事業大学の学生スタッフと、初めての交流会を横浜市立大学で行いました。日本社会事業大学のみなさんは、継続的な保健福祉関連のボランティアに複数参加されており、Volunchのスタッフがやっている活動との違いを感じました。イベントやスポーツ大会でのボランティアだけでなく、継続的なボランティアに目を向ける機会になりました。

## 8月交流会

フェリス女学院大学と神奈川大学の学生スタッフとの交流会を、横浜市立大学で行いました。交流会では、他大学交流のメリット・デメリットを洗い出し、メリットを活かしつつデメリットを解決するための実施可能な企画を考えました。さらに、お互いに活動報告をし、意見交換をしたことで、今後の活動に活かせる情報を得る機会になりました。



Volounge企画の目的は、Volounge (YCUスクエアS27)の存在と意義を広め、学生が気軽に訪れることができる場所にすることです。学生同士の情報交換など、コミュニケーションの場として活用されるような、活気あふれる場所にしたいと考えています。

# Volounge企画

学生の身近な存在になるために！

## 第1回Volounge企画

12月に行った初めてのVolounge企画では、ボランティアに参加した一般学生による活動報告と、今後募集されるボランティアの紹介、Voloungeの活用方法の紹介を行いました。

一般学生のボランティア参加者に活動報告を行ってもらうことで、参加するきっかけや実際に参加した感想を客観的な視点から知る機会になり、今後、学生に向けてボランティアを紹介する時や企画を行うときの参考にしたいと思いました。

# その他の活動

Volunchのスタッフは、様々な企画を通して学生とボランティアをつなげていると同時に、ボランティアにも積極的に参加しています。実際にボランティアに参加することで、より良い企画作りにも役立てています。

## ボランティア実践講座

初めてボランティアに参加する学生のために「ボランティア基礎講座」という1時間半の講座を行い、その後実際に活動に各自参加。そして活動後再び集まり「振り返りワークショップ」を行うという、3ステップの講座です。ボランティアに参加したいが、実際にどう活動すればいいのか、どのように依頼者や当事者の方とコミュニケーションを取ればいいのか…といった不安や疑問を解消することが最大の目的です。

## 金沢まつり花火大会

「金沢まつり花火大会」が海の公園で開催され、翌年の花火大会開催に向けた募金を呼びかけるボランティアを行いました。私たちは、おそろいの青いボランティアTシャツを着て、花火の打ち上げ前後に募金活動を行いました。活動している中で、「来年度も開催できるよう、花火募金のご協力お願いします。」という声かけに多くの方が反応してくださり、この花火大会がたくさんの方に支えられて開催できているということを実感することができました。

## 横浜マラソン2018

中止になってしまった「横浜マラソン2017」のメダルをかける役割を務めました。28,000人以上いるランナーの方にメダルをかける作業は大変でしたが、フルマラソンを完走した方の姿はとてカッコよかったです。多くのランナーの達成感溢れる姿に感動し、私たちもエネルギーをもらったと同時に、自分も走ってみたいと思いました。想像以上の重さのメダルから活動の意義を再確認できました。また、ランナーの方から「ボランティアの皆さんもお疲れさまです」という言葉をいただいたときはとても嬉しかったです。

## 横浜シーサイドトライアスロン大会

「横浜シーサイドトライアスロン大会」が横浜・八景島シーパラダイスにて開催され、選手受付・フィニッシュテープ、誘導、健康チェックシートの配布の仕事を3つのグループに分かれて行いました。責任感のある業務に最初は緊張しましたが、参加する選手への対応をする中で、正確でスムーズな業務をするだけでなく、自然な笑顔で対応することができました。フィニッシュする選手の皆さんはとて笑顔で、達成感に満ち溢れているように見えました。



横浜市立大学ボランティア支援室  
学生スタッフ“Volunch”  
E-mail: [stuvolun@yokohama-cu.ac.jp](mailto:stuvolun@yokohama-cu.ac.jp)

横浜市立大学ボランティア支援室  
金沢八景キャンパス YCUスクエア1F & 2F S27「Volounge」  
平日 10:00～17:00  
TEL: 045-787-2444  
E-mail: [voluntee@yokohama-cu.ac.jp](mailto:voluntee@yokohama-cu.ac.jp)

Facebook



Twitter



ボラ室HP

